

タイトル	生活全般の課題を捉えていくための利用者疑似体験
------	-------------------------

事業所	社会福祉法人大和会 愛生苑		
発表者：太田将仁（おおたまさと）	アドバイザー：伊藤敏（いとうつとむ）		
共同研究者：八木貴幸			

電話	042-376-3555	E-mail	goka@yamatokai-tokyo.or.jp
FAX	042-376-3530	URL	http://yamatokai-tokyo.or.jp/O8_topPage_A/index.html

今回発表の事業所やサービスの紹介	〒206-0001 多摩市和田1547番地 愛生苑は「愛と共生」を施設理念として、「心豊かでゆとりのあるシニアライフの実現」に向けて、医療・介護・食事の連携を重視した施設運営を行っている。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

愛生苑では個別的なケアサービスの提供をめざし、ケアプラン作成をしている。しかし、ケアプランのサービス内容は利用者の状態や要望などの「顕在化しているニーズ」に対してのケアを主として捉えたものが多く、生活全般を視点として捉えたケアを目指すのが課題であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

本研究の目標を愛生苑利用者の生活全般の課題を見つけていくこととし、特に表面化されていない利用者の要望や課題などの「潜在的にあるニーズ」を捉えていくことに注目した。「潜在的にあるニーズ」を検討・考察していくことで、ケアサービスを向上できるのではないかと期待し、本研究に取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

実際に愛生苑利用者の生活を捉えるために、24時間利用者疑似体験を行った。体験する利用者のモデルとして、代弁することが難しい方を想定し、①口頭で意志表示することが出来ない②自身で体動することが出来ないの二点の条件とした。

本研究の内容として…

① 実施時間 AM11時～翌日 AM11時

②場所 静養室（就寝場所）、食堂（食事場所）
③方法 時系列毎に気づいた点、感じた点をマークシートに記入していき、後に大まかなジャンル分けとして感じた要因をCW、モデル自身、環境、時間帯の項目に分け、評価していった。

《4. 取り組みの結果と考察》

愛生苑での一日の生活を体験することで、様々な場面での気づきや課題を得ることができた。この得たものの中から、職員全体で取り組むべきものを選択し、意識的にケアサービスに反映させていくことで、利用者のQOL向上につながると考えられる。また、本研究で得た気づきを「潜在的にあるニーズ」を考察する上で取り入れていきたい。

《5. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

【メモ欄】